

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号		
自己評価作成日	令和2年6月26日	評価結果市町受理日	令和2年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく 共に楽しく」 地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・を理念とし、地域の方との関わりを大切にしています。運営推進会議参加の皆様や30分ボランティア、近隣自治会、ご家族など多くの方々と馴染みの関係が築けています。地域の方にご案内頂き、利用者様とほたる祭りや夏祭り・どんと焼き等、四季折々の催しと一緒に出掛ける機会が多くあります。家族会では納涼祭を開催し、ご家族・ボランティアを交えて総勢55名の参加がありました。ご家族へは風花で行われた行事や職員研修等を載せた風花メールを毎月郵送しています。風花メールは、日ごろの様子がよくわかり、「元気な顔が見れて安心しました。いつも楽しみです」と喜ばれています。今年に入り世界中で流行している新型コロナウイルスの影響で風花でもご家族の面会禁止や利用者様の外出制限にみまわれました。このコロナ禍の中で地域への外出もままならない状況でしたが、風花で出来る取り組みについて考え、天気の良い日は季節の野菜を植えた畑やプランター・花壇に植えた花を見に広い苑庭に出かけ、太陽に当たる機会を増やしました。利用者様の身体機能の維持・向上を目指し行事の中で室内でできるミニ運動会を開催。玉入れやパン食い競争等、利用者様も沢山の笑いと沢山の笑顔を見ることが出来ました。法人ではリハビリ職員が、コロナ禍で身体を動かす機会が少ない利用者様の為に毎日楽しんでできるリズム体操のDVDを作成。地元山陽小野田市の風景を映像で流しながら、ヒット曲のバブリカや懐かしのユーミンの歌で行う体操は利用者様も毎日の楽しみとなっています。利用者様がご家族と会えない期間が続いていましたが、5月に入り短い時間ながらも感染に留意し曜日・時間で区切り、接触を減らすことで面会を行っています。ご家族も「少しの時間でも会えるのでうれしいです。」と喜ばれています。まだまだ続くコロナ禍ですが利用者様・ご家族・地域の皆様・職員が協力して頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、30分ボランティアの方を野菜づくりや草取り、庭の手入れ、事業所の行事参加協力、利用者との話し相手などとして毎日受け入れておられるなど、利用者が地域の人と関わることを大切にされています。毎月1回、料理の日を設けられ、利用者や職員と一緒に調理(ワゴン車を押して食事を受けに行く、下ごしらえ、味付け、盛り付け、食後の片付けなど)をされています。季節の行事食の当日は、食事の席の配置換えをされたり、季節の花を飾られて、行事の雰囲気を出す工夫をされています。誕生日には、家族も参加されてカフェエビまりで夕食されたり、ランチでお祝いをされています。利用者が自宅まで家族と一緒に散歩されたり、日常的に絵画の本を読まれたり、絵を描いておられる利用者を家族と一緒に美術館に連れて行かれたり、娘がミュージカル公演に招待されるなど、職員は本人の思いを家族と共に支える関係づくりに努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現任職員・新人職員が受ける接遇研修があり、理念を基にした教育を法人で実施している。普段の介護の色々な場面で目に入るように名札の裏や各書類、スタッフルーム等に掲示したり、朝礼や会議の時に理念、ケアの4つの柱を唱和することで利用者様との関わり方を常に意識し、実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念と「ケアの4つの柱」を事業所に掲示し、合同会議や各ユニット会議時に唱和をしている。職員の名札の裏や各書類に記載することで、利用者との関わり方を意識するように心がけている。法人研修(新人、現任研修)で理念について学び、職員は日々の介護場面の言葉かけや態度等を振り返り、理念がケアに反映されているか確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭、どんど焼きなど地域の行事も教えて頂き参加している。また、毎月お寺の住職が来苑され、法話の会を開いて頂いており皆様楽しみにしておられる。30分ボランティアの方が季節の野菜作りや庭の手入れをしに毎日来てくださいます。職場体験として地元の中学生在が来ています。	自治会に加入している。地域のどんど焼き、夏祭り、文化祭等に利用者と職員が一緒に参加している。30分ボランティアを季節の野菜づくり、草取り、庭の手入れ、事業所行事の参加協力、利用者の話し相手(事業所の都合に合わせて)等として毎日受け入れ、利用者が地域の人と日常的に関わることを大切にしている。月1回、法話の会を開催している。12月は、混声合唱団のコーラス、二胡演奏、津軽三味線&羽駒座等によるコンサートを開催している。福祉専門学校の実習や中学生の職場体験を受け入れるなど、事業所は地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ風花行事のご案内をし参加頂いた際に、現場での声掛けの仕方や介護のポイントを見て頂く機会となっている。年1回法人が近隣の文化ホールで生活改善リハビリセミナーを開催している。地域アンケートで要望が多い内容を専門職員が講師となり、職員は自治会、婦人会、民生委員等の方々へご案内し多くの方の参加がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	4月の風花勉強会で外部評価と自己評価について学び、介護経験のある職員は支援について見直しの機会になり、新任職員からは項目の問いに理解が難しいと質問があり管理者やリーダーが1対1で答えた。	内部研修で評価の意義と活用について学び、全職員に自己評価をするための書類を配布し、各職員が記入したものを管理者やリーダー、職員代表で話し合い、まとめている。まとめたものは職員に回覧している。評価を活かして、運営推進会議の議題内容を理解してもらうために、会議録を職員に回覧すると共に、全家族に送付している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者様情報・月の行事計画(風花暦)・風花メールを資料として利用者様の生活状況を報告し、意見を頂いている。外部評価・自己評価についても行ったことを報告している。会議出席者の意見が書かれた会議録は回覧へ回し、会議に出席していない職員も見るようにしている。	会議は2カ月に1回開催し、メンバーは利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、第三者委員、自治会長、地域住民、民生委員、婦人会長、30分ボランティアなど多方面からの出席を得て、利用者状況、サービス提供状況の報告、感染症対策、研修報告、身体拘束等を議題にして話し合っている他、地域行事等の情報を得る場となっている。会議録は職員間で回覧すると共に家族に送付している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も出席しており、ご家族や地域の方々の質問に対して答えている。介護保険報酬改定や手続き等で分からないことは窓口や電話にて質問しアドバイスを頂いている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、直接出向いたり、電話等で質問や相談をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や認知症支援ネットワーク会議参加時に情報交換や意見交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を見直し、年2回風花勉強会で取り上げている。身体拘束適正化検討会議を3ヶ月に一度行い、声のかけ方や関わり方等を話し合い、利用者様の安全を確保しながらその人らしい生活が送れるような支援にみんなで行っている。	内部研修で「身体拘束排除の取り組みについて」年2回学び、3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催している。夜間の転倒が多いことから事例検討をして福祉用具の検討をしているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい人には気分転換を図ったり、職員と一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについては、「ちょっと待って」、「さっき言ったでしょう」などの具体的な言葉について話し合い、注意合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止マニュアルがあり、風花勉強会で議題に上げている。勉強会では職員が講師となり虐待とはどのようなことなのか具体的に例をあげ話し合っており、リーダーは言葉かけやかかわり方で気になるところはアドバイスをしている。法人で接遇研修があり利用者様の尊厳を大切に言葉遣いに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	風花では利用者様1名が成年後見制度を利用されている。風邪花勉強会で職員が講師となり成年後見制度について学んでいる。参加できなかった職員へは、報告書と資料を回覧しており誰もが制度について学べるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者がしており、重要事項説明書・契約書をもとにご家族の不安や質問を受けながら時間をかけて理解・納得されるまで説明している。介護保険の改定についても書面で説明をしております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて要望・相談窓口、第三者委員の設置について説明している。要望を書きやすいように、ご家族へ無記名のアンケートを実施しており、内容について皆で考えご家族へ回答をしている。面会時や電話でご家族から要望や相談を受け、対策や対応を要望書や連絡帳で職員全員が知るようしており、日々のケアに活かしている。風花玄関には要望箱を設置している。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続き等について、本人や家族に説明している。運営推進会議参加時、面会時、家族会(納涼祭)参加時、年1回のアンケート等で家族の意見や要望を聞いている。要望が出ると内容を全職員に回覧し、ユニット会議で検討している。本人の洋服を家族が持ち帰って洗濯することの要望に答えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議、月1回の合同会議があり、職員が意見や相談がしやすい場となっている。会議で挙がった意見や提案があれば管理者から代表へ伝え改善策を検討している。	月2回のユニット会議や月1回のユニット合同会議、毎日の申し送時、日常業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。月1回のリーダー会議では意見や要望について話し合いをしている。浴槽周辺の環境からシャワーチェアの購入など、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時には希望を聞いており、休みの日や希望の出勤日にはなるべく添えるようにシフトの調整をしている。法人の規定で職員は介護福祉士・社会福祉士・看護師の資格に対して手当がつく。日頃は残業することなく定時に帰り、緊急・行事などの残業は手当がつき、職場環境は整っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などの案内があり、管理者が必要な研修を他の職員へ伝えている。昨年度は実践リーダー研修を1名受講した。新任職員にはプリセプターをつけ、介護技術・認知症ケア等の教育をしている。市の消防署が主催する上級救命講習を2名受講した。	外部研修は、職員に情報を伝え、各自の立場や経験等、段階に応じて学びの機会を提供している。実践リーダー研修や職員研修、上級救命講習に参加している。受講後は、研修報告書と資料を全職員に回覧している。法人研修は、毎月の研究発表、感染症予防と蔓延防止、接遇、応急手当などの研修に参加している。月1回の内部研修は、自己評価及び外部評価、認知症ケア、看取りの考え方、などを学んでいる他、救命講習、応急手当、防犯などの訓練を毎月1回、実施して、全職員が自信を持って対応できるように取り組んでいる。新人研修は、法人の研修後、日常業務の中でプリセプターによる教育や先輩職員の指導を受けている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会議に参加している。地域との関わりや活動について意見交換などする機会があり、活動の参考にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学の機会をもうけており、入居利用者様の様子や居室を見て頂いている。入居時には入居時情報などをしっかりと確認し、安心して過ごしていただけるよう関係づくりをしている。利用者様と一緒に話しをして頂いたり、ゆっくりとお話を伺える場所できりげなく不安や要望を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学や入居前カンファレンスをしており、管理者やリーダーと一緒に不安や要望を伺う機会をつくっている。法人相談員が窓口になり施設サービスについて相談にのっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時には、相談員、ケアマネ、管理者、担当職員が連携し、利用者様やご家族が必要なサービスについて話し合っている。入居後のかかりつけ医について必要であれば歯科や他科受診など、活用できるサービスについて支援している。遠くにお住まいのご家族やお勤めで付き添えないご家族に代わって継続して通院介助が出来るようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居前情報から利用者様の生活歴を知り、住む環境が変わっても得意なこと・お好きなことが続ければ声掛けや、他利用者様と馴染みの関係が築けるように席やソファの配置を工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関ロビーには職員の写真入りのボードがあり名前を憶えて頂けるようにしている。管理者やリーダー・担当者が窓口になり連絡を取り合っている。ご家族から相談や要望があった時には、要望書や連絡帳で職員皆が把握し対応に努めることで安心に繋げている。面会時にはケース記録を見て頂きながら日々の様子をお知らせしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族の方だけでなく今まで暮らしておられたご近所さんやお友達も面会に来て下さっている。来られた時にはゆっくり過ごして頂けるように居室やソファにご案内している。職員と馴染みの店に買い物や外食に行ったり、ご家族と散歩や外出、自宅に戻れることもある。面会時間を決めていないので仕事帰りに立ち寄られることもある。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、教え子の来訪、遠方家族の宿泊がある他、年賀状や暑中見舞い状、誕生日のメッセージ、手紙、電話等による交流の支援をしている。職員と一緒に馴染みの店での買い物や外食の他、家族の協力を得ての外出や自宅までの散歩、馴染みの美容院の利用、墓参り、外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が座られる席は気の合う方と一緒に配置したり、お一人でゆっくり、皆が見渡せる席などその方一人一人の想いに添っている。コミュニケーションの難しい方には職員が横に付いたり、間に入り利用者様同士の関わりをきっかけづくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には風花で撮りためた思い出の写真のアルバムや、CD-Rへ写真をまとめお渡ししている。風花で看取ったご家族が時々立ち寄り、旅行に行った際のお土産など差し入れして下さったり、年賀状のやり取りがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望を伺っている。お部屋でゆっくり過ごしたい方もおられる為、無理強いしないでおやつや食事の時などコミュニケーションがとれるように声掛けをしている。思いを伝えることが難しくなられた方には表情やしぐさから想いを汲み取り支援している。	入居前に本人や家族、入居前の利用施設から得た生活歴、趣味、嗜好などの情報を入居時情報に記入している。日常の関わりの中での利用者の発した言葉や行動、表情などや職員の気づきをケース記録に記録している。それらを月2回のユニット会議で検討し、利用者の思いや意向の把握に努めている。ミュージカル劇団に所属している娘の公演を長い間見ていないという本人の言葉を聞き、家族に思いを説明し話し合ったことで本人が公演に招待されて出かけている。美術関係の本を読んだり、絵を描くこと好きな利用者を職員間で検討して、家族と一緒に美術館に連れて行っている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報の生活歴やご家族から伺った趣味、嗜好をもとに生活の中へ取り入れるように支援している。編み物の得意な利用者様は毎日編み物が出来るように、毛糸がなくなったらご家族へお知らせしたり、買い物の際に購入してお好きなことが続けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には1日のご様子、生活記録にはバイタル・食事量・水分量・排泄・入浴・睡眠状況などを記録し一目で身体・精神状況が把握出来るようにしている。月2回のユニット会議で議題にあげ支援の方法を話し合っている。会議録は回覧し全員が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、ケース記録へ実施した生活支援計画の番号を記入し実践状況が一目でわかるようにしている。ケアカンファレンスは3か月毎に見直ししているが、利用者様の状態の変化に合わせてその都度介護計画の見直しに繋げている。	管理者と計画作成担当者、利用者を担当している職員でサービス担当者会議を開催している。本人や家族の思いや意向に添って、医師や訪問看護師、理学療法士、薬剤師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状況や家族の要望に変化があれば、その都度、見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様お一人お一人に担当職員を決めることで、深く知ることに努めている。知りえた事はケース記録や連絡帳、アセスメントに記入する事で次回のケアプラン更新に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週火曜日には、同法人の作業療法士が訪れてリハビリ健康体操があり、利用者様は楽しみに参加されている。協力医療機関の田中デンタルクリニックの往診があり希望される方は口腔ケアや義歯の調整を受けている。他科受診の際ご家族から付添いの要望があった場合は、調整し職員が付き添っている。週に1回訪問看護や2週に1回の薬剤管理指導があり、体調不良の早期対応や管理に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のご案内があり、夏祭り・地域文化祭等参加する機会が多くある。30分ボランティアの方々の協力もあり、お話し相手をしてくださったり、畑を管理して下さることで季節の野菜を皆さま楽しみにしている。普段から民生委員、自治会長、地域の方と連携を深めており、風花での行事や法人のお祭り、家族会に参加下さり、共に楽しむ関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医・専門医にかかられている利用者様には受診時、ご様子やバイタルなどが記入された物をお渡しし、安心して受診できるように支援している。ご家族が付き添えない時には、職員が付き添っている。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受けている。以前からのかかりつけ医や他科受診は、家族の協力を得て受診支援をし、バイタル情報等を医師に提供している。受診結果は、健康診断書として家族へ毎月送付している他、電話や面会時にも伝えている。職員間では受診、服薬指示等を連絡帳に記入して情報を共有している。緊急時は協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良があった時には医師・訪問看護師に病状を報告し、連携を図っている。法人内のクリニックと医療連携があり、週に一度訪問看護がある。一週間の体調や変化のあったことなどを伝えて、アドバイスを受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と法人の地域連携室が連絡を綿密に取り合い、早期退院に向けて取り組んでいる。入院時は1か月間居室の取り置きが出来る。入院された時には看護・介護情報提供書を作成し、普段のご様子や最終入浴、排便などもわかるようにしている。職員はお見舞いに行くことで利用者様の様子を把握している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師・管理者がご家族と何度も話し合いの場を持ち、ご意向を伺うようにしている。ご意向はケアプランに取り入れ、毎日のケアにつなげている。風花勉強会で看取りの指針や重度化についての勉強会を行っており、エンゼルケアの手順などを職員同士で確認しあっている。	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を確認して、医師や看護師、管理者と医療機関や他施設への移設、看取り等について話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んで入る。看取り時の遺族への心づかいについて話し合い、「重度化及び看取りに関する指針」の改定をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人の応急手当研修がある。研修に参加できない職員へは風花独自で応急手当研修を行い繰り返し訓練している。事故発生時の対応、事故発生予防マニュアルがあり、風花勉強会で対応の手順を確認している。年に1回普通救命講習も受講している。昨年は2名が上級救命講習を受講した。緊急時持ち出しファイルを作成しており、救急車を呼ぶ前にする事、準備するもの、急変時連絡先などがわかるようにしている。	事故が生じた場合は、インシデント報告書やアクシデント報告書にその日の職員が記録し、回覧すると共に、主治医や訪問看護師に報告している。月1回のユニット会議時に再発防止について話し合い、計画に反映させているなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は、普通救命講習や上級救命講習を受講している他、内部研修で事故発生予防マニュアルに従い急変時の対応、感染症予防、事故発生時の対応などを学び、毎月1回、救命講習、応急手当、防犯訓練等を実施して、全職員が自信を持って対応できるように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災訓練がある。地域の自治会とは災害時における協定書を結んでおり、毎回一緒に訓練に参加頂いている。昨年の訓練では避難誘導の際に介護度の高く寝たきりの方を竹の棒と毛布で作成した簡易担架で運ぶ一連の手順を実践した。	消防署の指導の下、拠点施設合同の防災訓練を実施し、避難訓練には利用者や自治会住民の参加を得ている。水害を想定して、2階への非難訓練も実施している。地元の自治会とは災害時における協定書を交わしているなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	風花勉強会でプライバシー保護について学んでいる。法人の接遇研修で繰り返し言葉使いや接する態度など学ぶ機会がある。トイレや入浴の声掛け、入室時にはノックをするなどプライバシーを尊重した姿勢を心がけている。	法人の接遇研修や内部研修でプライバシーの保護について学び、日常業務の中での言葉づかいや不適切な対応、入室時のノックなど職員間で話し合い、人格を尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。個人記録の保管や取り扱いに留意すると共に守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様との会話を大切にし、声をかけやすい雰囲気づくりをしている。～しましょうではなく、～してみませんか、利用者様が選択できる声かけに心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで生活出来るように職員は声かけをしている。朝が苦手な利用者様もおられる為食事の時間がずれた時には温め直してお出ししている。お好きな時に居室に戻り横になられ、ゆっくりされる方もおられる。居室で仲の良い方同士でお話をしてくつろがれることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけの際にはお洒落をして出かけて頂いている。起床時には好みの服を伺い着て頂いている。ご本人お気に入りのネット帽子をかぶられる方もいる。男性利用者様の髭剃りも声掛けや介助でしている。移動美容室がありパーマやカット、洗髪、髭剃りなど希望に沿って申し込みをしている。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯と一緒に季節に添ったメッセージカードが届いている。おせち、お雛様、そうめん流し、敬老会、クリスマスなど季節を感じる事ができる献立となっている。毎食、ワゴンを押して職員と食事をとりに行って下さる利用者様がおられる。食事は毎食厨房から届いている。今年2月より月に一度利用者様と料理をする日を作り、下ごしらえから一緒に行っている。	三食のご飯と夕食の味噌汁は事業所で調理し、副食は法人の配食を利用している。月1回の調理の日(ランチ:今日の献立)を設け、利用者は職員と一緒に調理している。事業所の畑で収穫した野菜を使って、味噌汁や漬物、サラダなどで提供している。利用者は、ワゴン車を押して食事を受け取りに行くことや下ごしらえ、味付け、盛り付け、お盆拭き、食後の片付けなど、できることを職員と一緒にしている。月1回のおやつづくり(フルーツポンチ、スイートポテト、おはぎなど)、季節の行事食(おせち、雛祭り、敬老会、クリスマスケーキなど)当日は、食事席の配置換えをしたり、花を飾って行事の雰囲気を出したり、誕生日の夕食(カフェひまりで家族も加わりランチでお祝い)、家族の協力を得ての夕食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし摂取量の減少がみられたら看護師や管理栄養士の指示を受けながら、高カロリー食品をお出ししている。管理栄養士が立てた献立が毎食届き、利用者様に合わせて一口大・刻み・とろみ・ゼリー食・ミキサー食を用意している。お粥を好まれる利用者様もおられ食べて頂きやすい状態でお出ししている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関があり、定期的に歯科医師・歯科衛生士が往診に来て口腔ケアや義歯の調整をしている。訪問時には職員に向けて口腔ケアの指導もある。夕食後は義歯を預かり洗浄している。歯磨きやうがいが出来なくなられた利用者様にはスポンジブラシやガーゼで口腔内をきれいにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行かれる時間を把握することで一人一人の排泄パターンに合わせた声掛け・誘導を行っている。「トイレ」と繰り返し言われる方へは、本人が納得するまでトイレへお連れしている。便座に座って排泄出来ることを大切にしており、立ち上がりが難しくなられた利用者様も2人介助している	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけやトイレ誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳をお出している。便秘気味の方には医師の指示のもと内服薬でコントロールしている。ラジオ体操や廊下の往復運動リハビリ職員が行う健康体操などで適度な運動をすることで便秘予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のご希望を伺いながら入浴支援をしており、時間は決めておらず昼間・夕方への入浴希望に合わせ入浴して頂いている。しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じて頂いたり、お好きな湯温で入浴して頂けるようにしている。個室で浴槽をまたぐことが難しい方は法人内にある機械浴で安全にゆっくりと入浴できるように支援している。	入浴時間は14時から20時までとし、利用者の希望に沿って、週3～4回の入浴支援をしている。入浴したくない人には無理強いせず、職員の交代、言葉かけなどの工夫をしてその人に応じた支援をしている。菖蒲湯、柚子湯などを利用して季節の変化を楽しんでいる。利用者の体調に応じて清拭、足浴、シャワー浴の他、法人の機械浴を利用するなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は決めておらず好きな時間で生活して頂いている。照明は好みを伺い安心して眠られる明るさにしている。居室に戻り横になられたり、和室やソファでゆっくり過ごされる方もおり、テレビが好きな方はテレビを見ながら休まれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルに沿って服薬支援している。薬が変更になった時には薬局から薬情報が届き職員は内容を把握している。錠剤がのみにくなられた方には薬剤師に相談し医師と連携を取り見直しをしたり、服薬方法の指導を受けて必要な薬を飲むよう支援に繋げている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2月より月に1回料理の日を作り、利用者様と準備や下ごしらえ、盛り付けまでを一緒に行なっている。季節に合わせてよもぎ餅、桜もち、おはぎや漬物作り等利用者様にコツを教わりながら一緒に行っている。誕生日の方へは誕生会を開き、皆さんでお祝いし記念写真を撮る。また法人が運営するカフェひまりへ出かけランチでお祝いもしている。	節分の豆まき、風花リハビリ健康体操、ロビーコンサート、津軽三味線、舞踊、夏祭り、ハンドベル演奏会、クリスマス会、紙芝居、誕生会、料理の日、おやつづくり、梅干しづくり、宝探しゲーム、ヨーヨー釣り、芋掘り、花火、七夕、すいか割、家族会(納涼祭、そうめん流し)、法話の会、ミニ運動会、夏祭り、ほたる祭り、紫苑祭、母の日、敬老会、初詣、書初めなど、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	菖蒲や紫陽花・、コスモス、梅等季節の花を見に出かけている。地域の行事のご案内があるため一緒にお出かけしている。天気の良い日には苑内外の畑や庭にお誘いし、近所の神社へ散歩に出かけている。面会に来られたご家族と一緒に散歩へ行かれることもあり、共に過ごされる時間を大切にしている。	散歩、庭の花見、庭の柿もぎ、ショッピング(懐かしの駄菓子屋)、厚陽夏祭り、花見(紫陽花、紅葉、コスモス、梅、椿など)、ミュージカル公演、どんど焼き、ほたる祭り、美術館(絵画展見学)、ビワの収穫、ブドウ狩り、中学生と一緒に花の海、沖縄民謡と舞踊鑑賞など、戸外に出かけられるよう支援している。車椅子対応の車が導入され、外出が以前より多くなっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり管理している。お出かけや買い物の時には一緒に買い物に行き好きなものをご自分で選ばれ支払いもご自分で出来るように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	風花玄関には公衆電話があり、要望に応じて使用できるようにしている。携帯電話で遠方のご家族へ連絡を取っておられる方もおり、職員はこまめに電池残量を確認し充電を欠かさないようにしている。コロナ禍で面会が出来ない時には電話でゆっくり会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節折々のお花や小物を飾り、利用者様が楽しみにしておられる。廊下やリビングには置物や絵画が飾られており、文化的な雰囲気の中で生活しておられる。間接照明で温かみのある空間を大切にしている。リビングや洗面所には苑庭で咲く花や、職員と一緒に作った苔玉を飾り、季節や自然を感じて頂けるようにしている。	玄関には、家族やボランティアによる、四季折々の生花が飾っており、テーブルや椅子を配置し、家族や来訪者と談笑する場になっている。開放的で明るいリビングは、テレビや大小のソファが配置してあり、利用者のくつりげる居場所となっている。窓からは、手入れの行き届いた庭の花木や畑が見渡せ、ボランティアで来訪した人も庭から屋内の様子を垣間見ることができる。室内の温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人がけ、三人がけのソファや大小のテーブルを配置している。ソファや和室、自席で思いおもいにお一人でくつろがれたり、仲の良い利用者様同士でテレビを見たり外を眺めながら談笑されている。談話室もあり、面会時にはご家族とゆっくりお話できる空間となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室のレイアウトを本人、ご家族の希望で一緒に行き、ご自宅で使われていた馴染みのある家具や寝具などを持ってきて頂いている。風花で撮った写真やご家族からの贈り物など、いつでも見える場所に飾ったりしている。	鏡台、整理ダンス、衣装掛けスタンド、ソファ、テレビ、椅子、テーブル、ラジオ、ベット、衣装、寝具、化粧品、表彰状、絵画、猫のぬいぐるみグッズ、人形等使い慣れたものや好みものを持ち込んで、孫の写真、行事の写真、好きなカレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内はバリアフリーとなっており、段差はなく扉は引き戸となっている。トイレの場所が分からない利用者様のためにトイレのドアに大きく張り紙をしたり、利用者様の居室の扉横に室名札を下げている。共同トイレは車椅子や歩行器の方でも使用しやすいように広く設計されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム風花

作成日: 令和 2 年 12 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・コロナ禍の為、法人の月一回の応急手当研修に参加できていない。風花で毎月一回全職員が急変時や事故発生時に備えて訓練を行うように計画しているが、シフトの兼ね合いで訓練が出来ていない職員もあり実践力に不安がある。	・必ず月に一回、風花で訓練を行うことで、実践力を身につける。	・風花で毎月全職員が急変時や事故発生時に備えて訓練を繰り返し、各リーダーの監修の下、マニュアル通りに出来るまで行うことで、経験の浅い職員も自信を持って対応できるよう指導する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。